

防災気象情報の改善

令和5年度の主な取組の紹介

1. 線状降水帯の予測精度向上に向けた取組
2. 顕著な大雨に関する気象情報の新たな運用について

2023年6月
彦根地方気象台

線状降水帯の予測精度向上に向けた取組

観測の強化、予測の強化の取組の結果を順次反映し、これまで発生後の情報提供にとどまっていたところを、令和4年度より、予測精度向上を踏まえた線状降水帯の発生の予測を開始し、その後、段階的に精度を向上。



※具体的な情報発信のあり方や避難計画等への活用方法について、情報の精度を踏まえつつ有識者等の意見を踏まえ検討

国民ひとりひとりに危機感を伝え、防災対応につなげていく

顕著な大雨に関する気象情報の新たな運用について

- 「顕著な大雨に関する気象情報」の発表条件を踏襲しつつ、「**現在から30分先までに雨量や危険度の基準を満たす場合**」に発表する運用に変更し、これまでより**最大30分程度早く、全自動で情報を発表**する。

現行の顕著な大雨に関する気象情報の発表基準

- ① 解析雨量（5kmメッシュ）において前3時間積算降水量が100mm以上の分布域の面積が500km²以上
- ② ①の形状が線状（長軸・短軸比2.5以上）
- ③ ①の領域内の前3時間積算降水量最大値が150mm以上
- ④ ①の領域内の土砂キキクルにおいて土砂災害警戒情報の基準を**実況**で超過（かつ大雨特別警報の土壌雨量指数基準値への到達割合8割以上）又は洪水キキクルにおいて警報基準を大きく超過した基準を**実況**で超過

※ 上記①～④すべての条件を同時刻に満たした場合に発表

新しい顕著な大雨に関する気象情報の発表基準

現在から30分先までに、以下の基準を満たす場合に発表

- ① 前3時間積算降水量（5kmメッシュ）が100mm以上の分布域の面積が500km²以上
- ② ①の形状が線状（長軸・短軸比2.5以上）
- ③ ①の領域内の前3時間積算降水量最大値が150mm以上
- ④ ①の領域内の土砂キキクルにおいて土砂災害警戒情報の基準を**予測**で超過（かつ大雨特別警報の土壌雨量指数基準値への到達割合8割以上）又は洪水キキクルにおいて警報基準を大きく超過した基準を**予測**で超過

※ 上記①～④すべての条件を同時刻に満たした場合に発表

顕著な大雨に関する気象情報の新たな運用について

- 線状降水帯に伴う大雨による災害発生の危険度が急激に高まっている状況を端的にお知らせするため、新たな運用においてもこれまでと同じ内容で発表する。

【顕著な大雨に関する気象情報の発表例】

これまでの情報文と同じ

顕著な大雨に関する滋賀県気象情報 第1号

令和5年〇月〇日〇〇時〇〇分 彦根地方気象台発表

(見出し)

近畿地方、〇〇地方では、**線状降水帯による**非常に激しい雨が同じ場所で降り続いています。命に危険が及ぶ土砂災害や洪水による災害発生の危険度が急激に高まっています。

(本文)

なし